

“グリーンインフラの効果を見える化” 人工降雨による実証実験の様子を公開します！

～自然が持つ多様な機能のまちづくりへの活用に向けて～

気候変動の影響により水災害が全国各地で激甚化・頻発化するなか、横浜市では、これまでも公園等のリニューアルに合わせて雨水貯留浸透機能を高めるなどグリーンインフラを積極的に導入してきました。今後、更新時期を迎える他の公共施設へのさらなる展開も見据え、導入効果を定量的に把握するために屋外実証実験施設をつくりました。

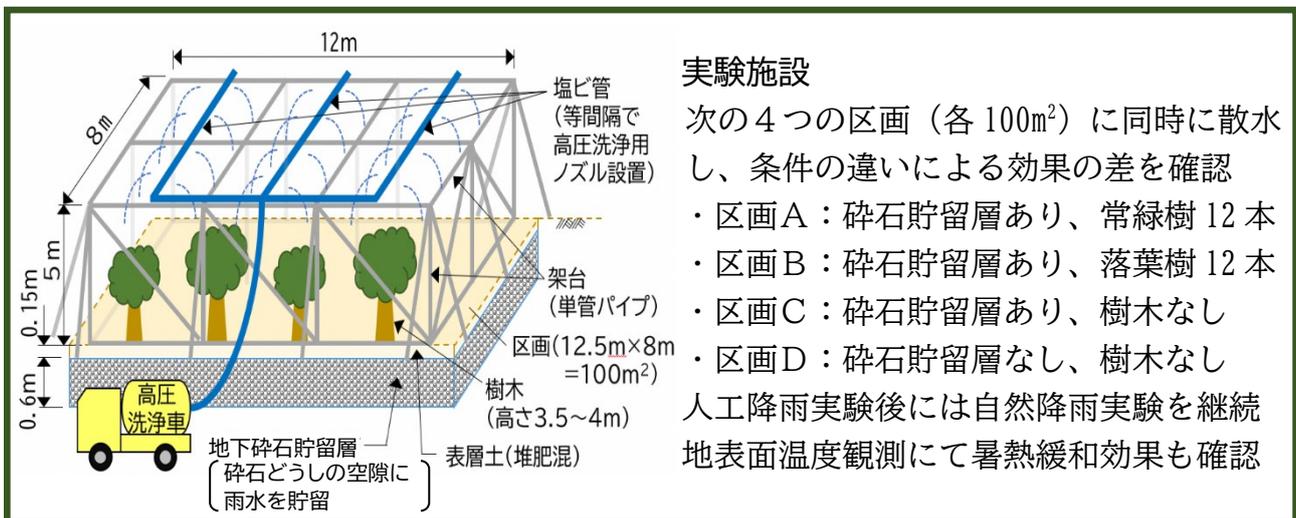
このたび、その施設を使って人工降雨によるグリーンインフラの実証実験を行い、その様子を公開することとしましたのでお知らせします。

※グリーンインフラ

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組

1 実験の概要

下図のような人工降雨装置により1時間あたり約70mmの強い雨を人工的に約5時間降らせ、^{ちかさいせきちりゅうそう}地下砕石貯留層の貯留量やオーバーフローする量、原地盤への浸透量、地表面及び樹木からの蒸発散量等を1分間隔で計測し、水の収支の時系列を確認します。



なお、本実験は公益財団法人日本下水道新技術機構とタイアップして実施するものであり、実験結果は、同機構から技術資料として後日公表される予定です。

2 実験の日時及び場所

日時：令和4年5月26日（木）※前日または当日が雨天の場合は31日（火）に順延
午前10時00分～午後3時00分

場所：港北水再生センター（港北区大倉山七丁目40番1号） ※案内図を参照

裏面あり

〈案内図〉



取材について

取材を御希望される場合は、実験前日の5月25日(水)午後4時00分までに下記のお問合せ先まで御連絡ください。

また、実験当日は、午前9時30分までに直接実験施設(屋外)にお越しください(詳細図の星印箇所から入場できます)。

アクセス

【電車でお越しの場合】

- 大倉山駅から徒歩 17分
- 新横浜駅から徒歩 19分
- 新羽駅から徒歩 20分

【車でお越しの場合】

場内に駐車スペース有り

お問合せ先

環境創造局政策課下水道政策調整担当課長 吉野 文雄 Tel 045-671-3586

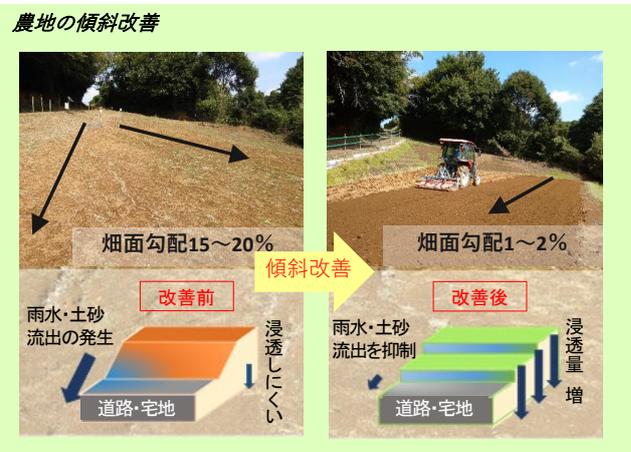
<参考>横浜市におけるグリーンインフラ導入事例

(1) 帷子川プロムナード (旭区)



- ① 概要 旧河道に雨水管（ボックスカルバート）を設置し、貯留砕石にて埋め立て上部には緑道を整備してプロムナードとして有効活用
- ② 効果 貯留浸透機能の強化、涼しい空間・憩いの場の創出、樹木の生長促進など

(2) 農地における作物の生産性向上と土壌の保水・浸透機能の強化 (都筑区)



- ① 概要 畑の固くなった土層を ^{はさい}破砕する ^{しんこう}深耕や傾斜改善により作物の生産性と土壌の保水・浸透機能を高める取組 (地元農業者団体、東京農業大学と連携)
- ② 効果 畑からの雨水や土砂の流出減少、トラクター走行が容易で生産性向上など